

たてはく

令和3年度 春の立山曼荼羅特別公開展

新潟県糸魚川市内に伝わる立山曼荼羅

会期：令和3年4月6日（火）～5月30日（日）

「立山曼荼羅」の中には、富山県以外の地で伝わっているものがあります。

「立山曼荼羅」金蔵院本は、新潟県糸魚川市山寺に所在する高野山真言宗の金蔵院に伝わるもので、千国街道に沿って信濃国に檀那場を形成した芦峯寺の教蔵坊や宝伝坊との関わりが考えられます。また、同市の個人宅にも立山博物館G本（旧広川家本）が伝わっていました。

そこで、令和3年度の春の立山曼荼羅特別公開展では、新潟県糸魚川市内に伝わる2点の「立山曼荼羅」を紹介します。（細木ひとみ）

展示資料：

- 「立山曼荼羅」立山博物館G本（旧広川家本、当館蔵）
- 「立山曼荼羅」金蔵院本（金蔵院蔵、展示は複製）

※「立山曼荼羅」広川家本は、令和2年9月29日に富山県に寄贈され、「立山曼荼羅」立山博物館G本と名称を変更しました。その後、修復作業を行い、修復後初公開となります。

開催場所：展示館2階 常設展示室（一部）
開館時間：9：30～17：00（入館は16：30まで）
観覧料：常設展示室観覧料 一般300円（団体240円）
※大学生以下等、70歳以上は無料
会期中の休館日：月曜日（5月3日は開館）
※4月29日（木・祝）～5月9日（日）は休まず開館



「立山曼荼羅」
立山博物館G本
(旧広川家本)

目次

令和3年度春の立山曼荼羅特別公開展「新潟県糸魚川市内に伝わる立山曼荼羅」	1
立山博物館は開館30周年を迎えます	2
令和3年度 開館30周年記念・特別企画展のご案内	
前期特別企画展 立山信仰と山麓の暮らし 一国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」の世界一	2
後期特別企画展 霊山立山 天空への祈り 一修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで一	2
山岳集古未来館 資料紹介	
堀田彌一資料からーナンダ・コートの装備⑨ オーヴァーミトン(4)	3
たてはく出前講座 受付中！	3
令和3年度 催し案内	4
「たてはく友の会」令和3年度会員募集中！	4
編集後記	4





☆立山博物館は開館 30 周年を迎えます☆

平成3年11月1日、当館は開館しました。それから早くも30年が経ちます。今年はこれを記念し、関係者による記念式典をはじめ、記念講演会とこれまでの成果が窺える特別企画展を開催します。

ぜひ多くの皆様にご参加、ご来館いただき、特別企画展をご覧いただくとともに、あらためて常設展示もご覧いただき、立山の人と自然のかかわりに触れていただければと存じます。

開館 30 周年記念講演

講師：青柳 正規氏（立山博物館顧問）

「文化のもつ力（仮題）」

日時：8月21日（土） 14：00～16：00

場所：サンシップとやま 1階福祉ホール

※聴講方法等詳しくはお問い合わせください

令和3年度 開館30周年記念・特別企画展のご案内

前期特別企画展

立山信仰と山麓の暮らし 一国指定重要有形民俗文化財「立山信仰用具」の世界一



令和2年3月、岩峠寺集落の宿坊であった延命院・多賀坊・中道坊に残されていた民俗資料を中心に、芦峠寺集落の特徴ある資料もあわせて、新たに160点が国の重要有形民俗文化財「立山信仰用具」に追加指定されました。これにより、総数が1,243点となりました。

これらの民俗資料を用いて、諸国の立山登拝者の様子と立山山麓のかつての宿坊景観や生活文化をわかりやすく紹介します。（細木ひとみ）

会期：7月17日（土）～8月29日（日）

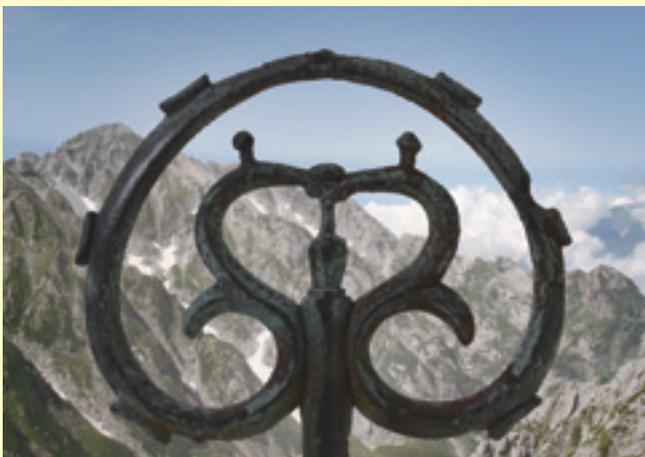
担当学芸員展示解説会

7/17（土）、8/9（月・祝）・28（土）

14：00～

後期特別企画展

霊山立山 天空への祈り 一修験から民衆登拝、布橋灌頂会まで一



立山は日本を代表する霊山であり、古代には「タチヤマ」に捧げる祈り、そして中世以降には墮地獄からの救済の願いが、錫杖頭、神像や仏像、経筒、石造物などの数々のカタチで遺されています。近世には男性の禪定登拝や女性救済儀式の布橋灌頂会が「立山曼荼羅」という宗教的絵画にあらわされ、立山衆徒による唱導・勧進活動によって「立山信仰」が一般民衆へ広がっていった。

本記念企画展では、重要文化財や近年発見された資料などから霊山立山に向けられた人びとの祈りと信仰の壮大な軌跡をたどります。（高野靖彦）

会期：9月18日（土）～11月7日（日）

担当学芸員展示解説会

9/18（土）、10/23（土）、11/6（土）

14：00～

*臨時休館：7月16日（金）、8月31日（火）、9月1日（水）・17日（金）（展示・撤収作業のため）





山岳集古未来館 資料紹介

堀田彌一資料から—ナンダ・コートの装備⑨ オーヴァーミトン(4)

立教大学山岳部ヒマラヤ踏査隊（ナンダ・コート登攀隊）の装備。前回に引き続き、竹節作太のオーヴァーミトンを検討する。前回述べたとおり竹節は、早稲田大学出身の新聞記者でスキーと登山に並ならぬ才能を見せ、1936年、新聞社特派員かつ五人目の隊員として踏査隊に参加、未踏峰ナンダ・コートの頂を踏んだ。今回参照する手袋は、既報の「高所用手袋」（皮革製三叉手袋）とともにナンダコート登攀に使用された。備忘メモなどは伝存しないが、ここでは、素材と形態を示す「サージ製二叉手袋」を資料名称とする。

外殻（外層）は黒色サージ製で、四指袋から穿口まで本体の背腹両面を一枚の布地から作り出す。拇指袋は背腹二枚を接いで本体中上部掌面外縁部に設けた穴に縫合、拇指袋腹面と四指袋掌面に広いアテ（補強当布）を隣接して施す。前腕前部にマチは設けず、腕筒全体を広く造る代わりに、手首周りの表地裏に平ゴムを縫付けてこれを絞りに装着感を確保、そして穿口近傍を長短一対の平帯（サージ共布）で締める。短帯は締金具のアンカーを成す。裏地は猫毛皮（推定、未検証）で、指袋裏を含む内部全面に施される。アテの摩耗（左手用に顕著）などに使用感はあるが、右手用長平紐基部縫合の破損と左手用表地小指側の擦れ穴（概寸2×1cm）以外に目立った損傷はなく、原形態をよく残す。この穴からは、毛皮裏地の下地布帛（平織組織）とサージ外層の間に真綿様の薄層を含む何層かの構造が確認でき、緩衝材にも手数を掛けていることが判る。商標は右手用腹面穿口近傍にのみ付き、美津濃製と知れる。

以上のとおり、同じサージ製二叉手袋でも、竹節のそれは、堀田のオーヴァーミトンとは造りの異なる別製品である。

ところで、竹節の踏査隊参加は出発直前に決した。「確定したのは七月六日、即ち、出発の一週間前だった。それ故、それまでの準備なんて少しもなかつたので、慌て、自分の使ひ古しのスキー用防寒具などをトランクに詰め込み、新しいものは上下七圓の白服二着だけ小脇にかいこんで出発した」（竹節『我がヒマラヤの記』、博文堂、1943）。以前から参加を熱望していた竹節には、それなりの下準備はあつたはずで、この述懐も額面通りには受け取れぬが、立教本隊の神戸出航は7月12日、確かに装備の一々を遺漏なく調達する余裕などはなかつただろう。

立教大学山岳部の装備調達は、時間的・経済的に余裕のないなか、数年をかけて、試作品の実地試験から梱包・送込に至るまで組織的・計画的に実施された。詳細は不明だが、損耗する装備の予備も、シェルパ用の装備も必要で、試作品の

流用もあり得ただろう。本採用のオーヴァーミトン製品にしても、幾種類何組あつたのかは不明だが、調達には必要最小限で、竹節への充当は考慮外だったに違いない。

実は、竹節のサージ製二叉手袋は、全体の形状が左右で微妙に異なり、左手用が小さく重い。左右の重量差は3g、全長差は2cmにも及ぶ。商標が右手用のみというのも不自然で、この手袋には組違いの可能性があるので。

実際どうだったかは知りようもないが、このサージ製二叉手袋の姿は、限られた調達品の中から竹節の装備を捻出した、遣り繰りの結果を物語っているのかもしれない。

（吉井亮一）



竹節作太のサージ製二叉手袋（オーヴァーミトン）

写真上左：腹（掌）面観。写真上右：背（甲）面観。写真下左：指袋腹の拇指袋腹面から四指袋掌面示指側半部に施されたアテ（補強当布；右手用）。写真下中：穿口裏面（右手腹面の裏面）。写真下右：美津濃商標「イツヒ印」（右手用腹面）。

全長（穿口から四指（示・中・薬・小）袋先端までの最大長）：33.5/31.5。全幅（指袋部最大幅）：12.5/12.5。平ゴム位置幅：11.5/11.5。穿口幅：15/15。平帯寸法（帯長×帯幅）：21.5×1.8（基部1.7）/21.5×1.8（基部1.7）。締金具附属平帯寸法（帯長〔縫付部分含〕×帯幅）：3.5×1.8（ループ端1.7）/3.5×1.8（ループ端1.6）。締金具枠寸（長辺幅×短辺幅）：2.5×2.2/2.5×2.2。商標：2.5×2.5。重量：125/128。以上の寸法標示は〔右手用/左手用〕、単位はcmまたはg。

【イツヒ印】水野家の家紋井桁紋の中に漢字「日」を施した水野兄弟商会（1906年創業）の商標を、1923年の美津濃運動用品株式会社設立にともない図案化、四周に「R.TRADE MARK MIZUNO CO.LTD」の文言を配したものの。【社名「美津濃」】西岡一雄に次の証言がある。「大阪美津濃は、この店〔美津濃商店；東京本郷赤門前にあつた日本最古の総合運動具店〕にあこがれて本名水野を美津濃ともじっている」（『登山の小史と用具の変遷』、朋文堂、1958）。ただし、社史には別の解説が載る。

*竹節作太資料の写真掲載は竹節家の御厚意による。

たてはく 出前講座 受付中!

立山博物館では、学芸員が県内各地の小・中学校や高校に伺い「出前講座」を実施しています。立山青少年自然の家での宿泊学習にも出向きます。内容は、立山の自然や歴史、「立山曼荼羅」の解説など、ご要望に応じてお話しします。小学校では立山登山の事前学習として、高校では郷土史学習の一環として、最適の講座です。

また、立山博物館展示館では、ご要望に応じて学芸員の「やわらかい」解説つきで、立山の自然や信仰、文化について学べます。遠足や研修などの団体見学を随時受け付けていますので、人数や時間などご相談ください。ご来館をお待ちしております。



（森山義和）





今年も
楽しいイベントが
満載!!

観覧料

- 展示館
 - 常設展示 一般 300円
 - 企画展示 一般 200円 (70歳以上含む)
 - 大学生 100円
 - ◆大学生と70歳以上の方は企画展示以外無料
- 眺望館
 - 一般 100円
- まんだら遊苑
 - 一般 400円
 - ◆大学生以下及び準ずる方、各種手帳をお持ちの方は無料
 - ◆20人以上団体料金あり
 - ◆この他の施設は無料

開館30周年記念・特別企画展

- 前期特別企画展 **立山信仰と山麓の暮らし** 7月17日(土)～8月29日(日)
- 後期特別企画展 **霊山立山 天空への祈り** 9月18日(土)～11月7日(日)

その他の展示

- 春の立山曼荼羅特別公開展
「新潟県糸魚川市内に伝わる立山曼荼羅」 4月6日(火)～5月30日(日)
- 冬の立山曼荼羅特別公開展
「岩峯寺中道坊の立山曼荼羅」 12月14日(火)～令和4年2月27日(日)

- ◆立博ぶらり探訪 (当館の施設を巡りながら立山の歴史と文化に触れる)
7月24日(土)、10月9日(土) 13:00～15:00 展示館、教算坊、閻魔堂、布橋ほか
定員15人 要事前申込 (応募者多数の場合は抽選) 参加無料
- ◆ミュージアム de ナイト in 芦峯寺 (立博が「地獄博物館」に化身!)
8月7日(土)・8日(日・祝) 18:00～21:00 (入館は20:30まで)
展示館、教算坊、山岳集古未来館 要常設展・企画展観覧料
- ◆まんだらナイトウォーカー光りと香りのページェントー
9月4日(土)・5日(日) 18:30～20:30 (入苑は20:00まで) まんだら遊苑 要観覧料
- ◆たてはく探検隊 (立山の自然、歴史、文化を親子で学べる)
10月2日(土) まんだら遊苑ほか 小学生対象 (保護者同伴) 定員25人 要事前申込 参加無料
- ◆文化講演会 『立山修験』を考えるー立山修験の位置付けと今後の課題ー
10月16日(土) 14:00～16:00 講師:山本義孝氏 (日本宗教学会会員・日本山岳修験学会理事)
立山町元気交流ステーションみらいふ 定員70人 (当日先着順) 聴講無料
- ◆もみじを愛でる会 (紅葉を見ながら立山曼荼羅の絵解き解説)
11月3日(水・祝)・7日(日) 11:00～11:40と14:00～14:40 教算坊 参加無料

各行事の詳細は
博物館まで
お問い合わせ
ください。

「たてはく友の会」令和3年度会員募集中!

ご入会で、
立博をお得に
ご利用ください!

- ◎特典 ①全ての施設の無料観覧/②特別企画展の無料観覧/③各種行事・催し物のご案内
④交流誌「たてはく」と「研究紀要」の無料配布/⑤図録・ポスター・グッズ等の割引
- ◎会費 一般会員 = 年額3,000円 / 賛助会員 (企業・団体等) = 年額20,000円 (一口)
- ◎期間 入会日から入会年度の3月31日まで (お申し込み時点から特典がご利用いただけます)
- ◎入会方法 当館受付窓口にて直接お申し込みいただくか、たてはく友の会事務局まで入会申込書をご請求のうえ、郵便局で会費を払い込みお申し込みください。Tel.076-481-1216 Fax.076-481-1144

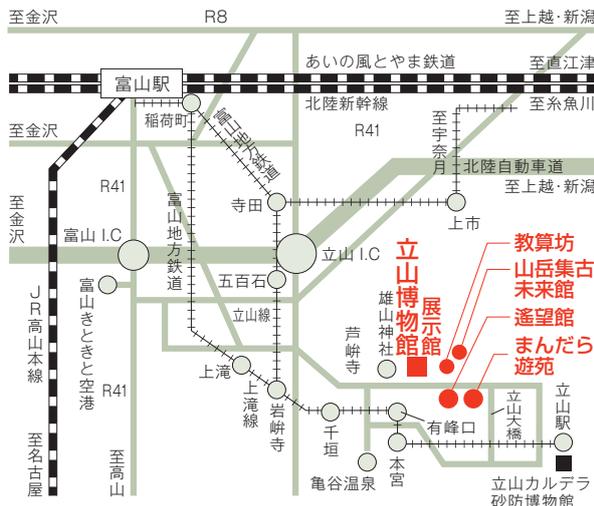
【おことわり】

本号に掲載する企画展等や各種行事につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大防止やその他の事情により、タイトルや内容、募集方法等を変更するか、中止する可能性があります。その際はHPにてお知らせいたしますが、詳しくは当館までお問い合わせください。

編集後記

今年が開館30周年。人になぞらえれば30歳は「而立」、子曰く「三十にして立ち」、すなわち精神的に自立し独自の立場をとって歩いていかなければいけない、ということのようです。目まぐるしい変化を見せる世の中において、立山博物館としての立ち位置やあり方について、今一度しっかりと見定め活動していきたいものです。(鈴)

案内図



- 最寄り駅
富山地方鉄道立山線千垣駅
下車徒歩(約2km)
※日曜を除き町営バス運行
「雄神社前」下車すぐ
- 自家用車で
JR富山駅から 約45分
立山駅(千寿ヶ原)から 約10分
富山インターチェンジから 約35分
立山インターチェンジから 約30分

立山博物館のホームページはこちらから。



人間と自然のかかわり方を学ぶ



富山県[立山博物館]

〒930-1406 富山県中新川郡立山町芦峯寺93-1
TEL 076-481-1216 FAX 076-481-1144
http://www.pref.toyama.jp/branches/3043/home.html

Facebook あります! 立山博物館

